

週間感染症情報

2019年35週 2019年8月26日日より2019年9月1日まで

麻疹	
風疹	
水痘(みずぼうそう)	
ムンプス(おたふくかぜ)	
百日咳	
溶連菌感染症	8
手足口病	30
ヘルパンギーナ	5
伝染性紅斑	
感染性胃腸炎	24
ロタウイルス(再掲)	
便アデノウイルス(再掲)	
突発性発疹	
伝染性膿痂疹(とびひ)	13
ヘルペス性口内炎	
アデノウイルス感染症	2
RSウイルス感染症	5
マイコプラズマ感染症	
ヒトメタニューモウイルス	
インフルエンザ(臨床診断含む)	3
インフルエンザA	3
インフルエンザB	

インフルエンザAの報告が3例(17歳、19歳、38歳)ありました。周囲への感染拡大はないようで、一安心です。

患者さんは多くありませんが、鼻汁・咳の感冒症状の症例が増えてきました。クループ様の年少児が多いです。

手足口病が再び増加しています。総社市内のこども園や保育園、岡山市内の保育園などです。高熱の症例は少なく、2回目のり患例も多いです。

感染性胃腸炎は、病原性大腸菌O26(9歳)、病原性大腸菌O18の姉弟(4歳・1歳)がありました。

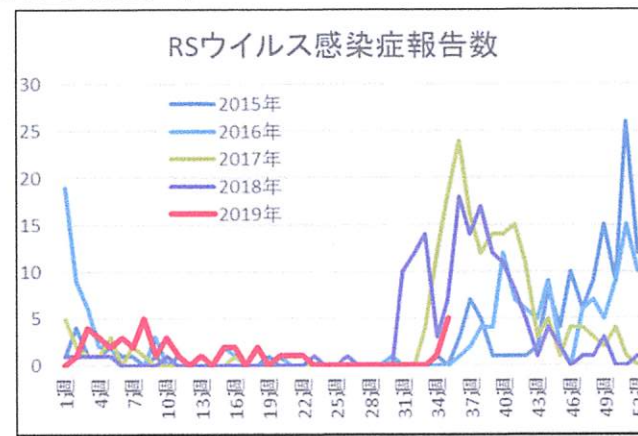
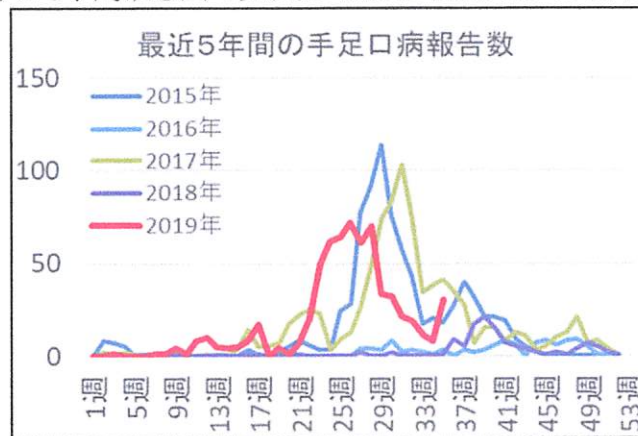
RSウイルス感染症は、在宅(2か月、4か月、8か月)、総社市内保育園(1歳)、倉敷市内保育園(1歳)です。

RSウイルスは生涯にわたって感染を繰り返します。年長児や成人は感冒症状で済みますが、乳児がり患すると細気管支炎や肺炎を起こし入院が必要になる事があります。インフルエンザのような特別な治療法はありません。

飛沫感染や接触感染で広がります。感冒症状があり乳児に接触する場合は、手洗いやマスクの着用など感染予防に努めて下さい。また、保育所で検査をしてもらってくださいと言われたと受診する保護者がいます。

周囲で患者が出ており、同様な症状ならば、感染していると考えられ、検査の必要はありません。

熱が下がり、食欲も出て元気になれば普通のかぜと同様に対応してください。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com> 変更になりました。)